

一步進んだ実現的な医工連携(医産金公連携)の取り組み開始

シップヘルスケアホールディングス株式会社(本社・大阪府吹田市、代表取締役古川國久、東証一部証券コード：3360)は、この度、当社グループのオリジナルスキームとして、医療現場が抱える課題や不満をニーズと捉え、当社グループがそれらを発掘し産業界へ可視化(翻訳)することで商品開発につなげるという新たな『医工連携』スキームを実施することとなりましたのでお知らせ致します。

近年活発に行われている『医工連携』とは医療界と産業界が協力して医療に役立つ“モノ”や“コト”を共創し提供する仕組みであります。

医療界、産業界のそれぞれは専門性が高く、双方の意思疎通は容易ではありません。また、製品化の先にある出口戦略(商品化)に課題を抱えることも少なくありません。

そこで双方の専門性に通じる当社グループが、キーマンに臨床工学技士を据え目利き役・橋渡し役になることで医療現場のニーズを適切に可視化(翻訳)し、金融機関の協力を得て適合する企業をマッチングし、ニーズを充足する製品やサービスを医療界と産業界が共に創造して商品化するスキームを構築しました。これにより医工連携の実現可能性を飛躍的に向上させることができるものと考えております。

さらに海外へも視野を広げ、本スキームを活用し新興国等のニーズを充足する商品開発にも応用し、当社グループも参加しているメディカルエクセレンスジャパン(Medical Excellence JAPAN: MEJ)を窓口在海外の医療の振興・発展に寄与したいと考えております。

■医産金公連携スキームの仕組みと関係者・協力者

○医療機関

民間病院、公立病院、診療所等

※. 医療機関の規模に依存せず、ニーズの大きさ・展開の広さを評価

○協力金融機関(企業紹介者)

銀行(3銀行)

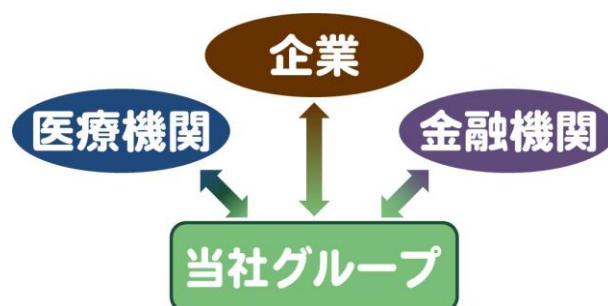
※. 情報に基づき適する企業とマッチング

○企業(産業界)

課題を解消できるシーズ・ノウハウ、意欲的な企業を金融機関から紹介。ものを作る製品化にとどまらず、当社グループと出口戦略を共有し商品化を目指します。

○当社グループ(情報収集者)

当初は目利き役となる臨床工学技士が独自に情報収集、連携の仕組み確立と並行してグループ全社が情報収集できるスキームを確立。



■スケジュール(第1案件)

- 2月14日 医療現場のニーズを協力金融機関へ配信
2月末 進捗確認(概ね2週間ごと)
4月末まで 候補企業との面談を通じマッチング

※. 第一号案件は患者安全上の課題を取り上げ、何らかの方法で安全性を高める提案を募集予定

※. 病院ニーズについては順次収集し5月1日を目処に各金融機関へ順次配信予定

*.本件における用語解釈

- ▽医工連携…医療界と産業界が協力して医療に役立つ“モノ”や“コト”を共創し提供する仕組み。
- ▽医療ニーズ…手術や処置の安全化、看護業務の軽減など課題として解消されていない事象を全般に捉える。薬事法上の医療機器に固執せず雑品やサービスなど手段を問わず医療現場の課題となることを解消する。
- ▽臨床工学技士…医学と工学の学際領域を担う国家資格。人工呼吸器や透析装置などを操作・維持管理する職種。
- ▽リバースイノベーション…General Electric(GE)社のChief Executive Officer (CEO)であるJeffrey Immelt氏が提唱。従来は富裕国へ革新的機器を市場投入し、それを簡素化して新興国市場へ投入したがReverse Innovationは新興成長市場のニーズに合った製品を開発して市場投入し、成功した製品を富裕国へも投入するビジネスモデル。GEはヘルスケアのリバースイノベーション商品として中国で超音波診断装置、インドで心電計を成功させた。

■ 本件に関するお問合せ先

シップヘルスケアホールディングス株式会社
〒565-0853 大阪府吹田市春日3丁目20番8号

■本件プロジェクト担当
グループ統括室 西 謙一

■広報担当
経営企画室 IR・広報担当 上月(こうづき) 直樹

TEL:06-6369-0130 FAX:06-6369-3191

シップヘルスケアホールディングス及び、グループ会社の概要は、
下記ホームページ

<http://www.shiphd.co.jp>